

# 平成30年 **6**月の大阪森林便り



## 今月の木の話

### なぜ伊勢神宮は20年ごとに一度建替えられるのか

- ・伊勢の皇大神宮は日本の代表的な神殿造りです。総ヒノキ造りで、20年ごとに建替えられて遷宮が行われます。
  - ・周囲の環境は、山の中で古杉に囲まれ、日当たりも良くなく湿気の多い所で、白木づくりの建物にとっては非常に立地条件の悪いところです。
  - ・悪条件の中を20年の歳月に耐えうるように造られています。
  - ・必要な空調を、分厚い壁板を使い、木材の性質を巧みに活かしています。
  - ・本殿の一番大きな棟持柱は、20年経つと五十鈴川に渡した宇治橋のたもとの大鳥居の柱として使われ、さらに20年後桑名に持って行って鳥居として20年使われます。その後は、末社の材料として使われるのです。
  - ・20年に一度建替えるのは、宮大工さんや太刀鏡等の技術を伝承するため。30年も期間をあけてしまうと技術の伝承ができないからです。
- (日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋)



### 北米産丸太、2年ぶり下落 5月積み 日本側の要求受入れ

#### コスト増の転嫁難しく

- ・北米産丸太の日本向け輸出価格が約2年ぶりに下落。現地価格は高止まりしているものの、日本の製材会社が米林業大手に値下げを求めています。
  - ・米松の5月積み価格は、4月積みに比べ1%下がりました。
  - ・国内の新設住宅着工戸数は9か月連続で前年同月を下回ります。建築用木材の荷動きが伸び悩んでいます。
  - ・米材で作った建築材は1年で9%の上昇。これに対し、北米産丸太の国内価格は1年で25%上昇。
- (2018年5月12日日本経済新聞記事から抜粋引用)



## 南洋材合板に先高観 マレーシア 原木輸出、一時禁止

- ・ マレーシアのサバ州政府が原木の輸出を一時禁止すると発表。同国のサラワク州では木材の伐採許可量が削減され、原木供給が減っています。
- ・ 南洋材合板の価格はさらに上昇しそう。流通価格は、厚さ 2.3mm 品が前年同月比 39%高くなっています。
- ・ 禁輸の影響により、マレーシア産丸太の輸入はさらに減る公算が大きくなっています。

(2018年5月25日日本経済新聞記事から抜粋引用)

